

令和 6 年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
介護予防・活躍推進に関する会議 会議録

1 開催日時

令和 7 年 2 月 3 日(月) 18 時 00 分～19 時 30 分

2 開催場所

北九州市役所 本庁舎 3階 大集会室

3 出席者等

(1) 構成員

有山構成員、石田構成員、伊藤構成員、菊池構成員、木庭構成員、下田構成員
田村構成員、永野構成員、宮崎構成員、安田構成員、山本構成員、吉田構成員

(2) 事務局

地域共生社会推進部長、地域支援担当課長、認知症支援・介護予防課長
長寿社会対策課長、介護保険課長、地域リハビリテーション推進課長

4 議事の概要

- (1) 北九州市しあわせ長寿プランの推進について
- (2) 活躍推進の取組みについて
- (3) 介護予防の取組みについて

5 副代表の選出

構成員の推薦により、副代表は吉田構成員に決定した。

6 会議経過(発言の内容)

事務局 議事(1)から(3)について、資料に沿って説明

代表 今それぞれのご担当のところから概略をご説明いただきました。説明が一応これで終わりますので、ここで一括して、構成員の皆様方からご質問、或いはご意見等をお伺いできればと思いますが、どなたからでも結構ですので、ご質問等がある方、よろしくお願いいたします。

構成員 難聴について、リハビリテーション推進課に言語聴覚士がいるとのこと

ですが、いろんな機器が置いてある福祉用具プラザにはそういった専門の方はいらっしゃるのでしょうか。

事務局 福祉用具プラザに言語聴覚士はおりませんので、難聴についての専門相談は、地域リハビリテーション推進課で個別にさせていただきます。福祉用具プラザは、例えば集音器とか機器のご紹介にとどめ、地域リハ課と連携しながら、事業を進めているといったところでございます。

構成員 では、地域リハビリテーション推進課に行ってもまず相談して、それから福祉用具プラザの方に行ってもいいということですか。

事務局 それぞれ役割が分かれておりますので、機器とか例えば使ってみたくてか試してみたくてかというのであれば、福祉用具プラザに直接ご相談が上がることも多いという形でございます。例えば自分の聞こえてどうなのだろうというような、難聴について気になっているなどの専門的な話であれば、地域リハビリテーション推進課でお受けいたしまして、話を聞く中で、機器の紹介につないだり、機器の方から入ってきたけれども難聴のことも気になるっていうのであれば、地域リハビリテーション推進課に伝達したりするなど、連携しながらご本人をサポートしているといった流れでございます。

構成員 21 ページのハイリスクアプローチの件でお尋ねです。対象の患者さん1,006名の方にアプローチをして、この中で、治療中断の方がほとんどだったのかなと思うのですが、その後、受診したとか何かそういう例とか、どのくらいの方が受診されたかとかデータがありましたらお願いいたします。

事務局 対象者の方によっては、かなり心配な数値であっても、受診に行き着かない方もおられます。皆さん、もうここまで元気だったからもういいでしょう、と言われるのですが、数値やその方の他の健診データを見ると血管のリスクが高いので、そういった方には複数回訪問して、時にはご家族も説得して病院へつなげているところになります。その中でいうと、その後、病院を受診された方が多いです。翌年、その翌年の健診で、本当に結果が良くなっているのかというところですが、翌年は健診を受けられてない方がかなり多いです。このことは、病院につながると、健診を受けなくなる方が多いのかなと思います。

高血糖や、慢性腎臓病、心房細動は、病院受診につながる方、翌年の健診の結果が良くなっている方がおられるのですが、高血圧については、皆さん受診されることを躊躇されます。薬飲みたくない、とか今症状としてどうもないからと言

われる方が多いと感じています。

構成員 今回行われました「彩・長寿・しあわせサミット」。これは1回限りで終わるのか、または定期的に1年に1回やるとか、そういう計画はあるのでしょうか。

事務局 今年初めて行った本イベントは、好評いただきました。今後は、予算の問題等がございますが、毎年長年の祭典というイベントを、敬老の日の前後に行っておりますので、それをこういった元気高齢者がさらに元気を増していただくようなきっかけとなるイベントに、切り換えていくということもできるかなと考えているところでございます。

構成員 「北九州市しあわせ長寿プラン(概要版)」は、すごくわかりやすく、よいパンフレットだと思います。概要版リーフレット 3 ページに記載されている 3 つの目標の1「目指そう活力ある 100 年」ですが、目標に対する主な取り組みで「シニアの就業支援」、「ボランティアによる社会参加」、「集いの場における健康づくりの強化」とありますが、これは北九州全体で見たときに、どのような場所でやっているのか、頻度はどれぐらいなのか、その辺をちょっとざっくりでよろしいので教えていただけたらと思います。

事務局 主な取り組みの例として挙げている1つが、「シニアの就業支援」ですが、北九州は高齢化率が高いですけれども、他の政令市と比べたときに、このシニアの就業率が低いという現状がございます。

その理由は、しっかり分析はできていないのですが、1つに健康寿命などとのつながりもあるのではないかなという意見もございます。

今現状としては、就労に関しましては、産業経済局が主に高齢者も含めたところでの取り組みをやっているのですが、私どもの保健福祉局がよりシニアの皆様への存在であるというところで、今後は元気を維持していただく1つの形態としてもこの就業を進めていくのは1つ大事なことです。その点について、産業経済局としっかり連携をして進めていきたいと考えております。

今は、このシニアの就業支援を行う窓口というのはウェルとばたにあります高年齢者就業支援センターをメインに、ハローワークなどとセットで進めているところでございます。

事務局 「通いの場における健康づくりの強化」について、会議資料の22ページに記載しておりますとおり、色々な通いの場が、地域にたくさん存在しています。地域の皆さんが自主的に集まって市民センターでしているところもあれば、何

とかさん家のガレージでされているなどがあり、集まる目的も、介護予防を頑張ろうとの思いの方もあれば、楽しみをみんなで共有する時間を過ごそうとの思いで集まっている方もあるかなと思います。

そのような通いの場に参加されること自体も、とても有効なことだと思うのですが、通いの場に、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、リハビリテーション専門職などの専門職がちょっとお邪魔させていただいて、少し元気になるコツをお伝えしますよとか、フレイルチェックをしてみませんかとかですね、そういったところをお伝えしているところになります。

通いの場もたくさん地域に存在していますので、各区の地区に隔々まで、専門職が訪問できるよう取り組んでおり、会議資料22ページに書いているように、令和5年度は、1,112ヶ所に伺っておよそ2万3,000人が参加されたところです。

構成員 この「彩・長寿・しあわせサミット」はすごくいいなと思いましたし、750名も参加されて、第1回目にしては本当に大成功だったのではと思います。また様々な取り組みを紹介いただいて、網の目がどんどん細かくなっていくというのを所感として感じております。

質問なのですが、例えばこのしあわせサミットに、市民のボランティアが参加する側ではなくて、企画する側にどの程度参画していたかとかいうのはいかがでしょうか。

事務局 このサミットは、年長者大学校の学生さん(高齢シニアの皆様と)、それから夢追塾で学ばれた方、それから14ページに記載している80歳からの合唱団の方、皆さんこの登壇者の方々も、北九州市の市民がいかにパワフルに頑張っているかというところを、本当に手が届かないような取り組みではなくて、皆さんちょっと前向きに進んでいただくきっかけとなるような感じで進めていたので、そういった意味では皆さんボランティアでたくさん頑張ってくださいました。

構成員 お客様として参加するというのも、大事だと思うのですが、招く側として参加、参画していくその計画そのもの自体に、活躍推進という観点からするとですね、自分たちの意見を、北九州市の方々が聞いてくれるとか、そういったことが1つ形になっていくという過程を一緒に歩めることも、活躍推進という意味ではすごく大事な気がしましたし、できればそういった方々が活躍したというその軌跡も、こういった報告書の中にあげていただいて、そのボランティアの方々がどのように頑張ってくれたとか、例えば北九州市が取り組まれている中に、当日北九州市民で高齢の方々がボランティアで何名参加してどんなこ

とを頑張っていたのかということも、ある意味高齢者に向けて高齢者自身がインフルエンサーとなって、成功事例というかそういった元気に活躍している姿を見せるっていうのもすごく模範になるのかな、「私もああになりたい。」と。

うちは、デイケアがあるのですが、90代を超えても背筋がまっすぐして運動されているような姿を見た70代・80代の方が「あの人みたいになりたい。」と運動を頑張る引き金になることもあるので、ちょっと今日質問させていただきました。ありがとうございます。

事務局 ご助言本当にありがとうございます。私どももそのように考えておりまして、来年以降、普段学んでいる年長者研修大学校の方とか夢追塾の方、本日の下田構成員も夢追塾の出身の方ですけど、そういった方が学んだことを活かせるような場作りとしても活用していきたいと思っております。

構成員 ポピュレーションアプローチについて、きめ細かに行って、フレイルの状態の把握とかいろんな対応ができる、相談できる環境づくりがあるので本当にいいことだなと思っているのですが、それは具体的には市民センターの通いの場の中から来てくださってというような形なのですか。

事務局 現在市民センターに限らず、いろんな場所でされているサロンの方から来てくださるという依頼が最初のきっかけではあるのですが、またこのフレイルチェックの状況とかに合わせて、またそろそろどうですか、とかお声掛けをする場合もありますし、そこに情報がたどり着かない方もあるかもしれないので、そういった普及啓発をしているところになります。

構成員 周望学舎は今ちょうど新入生の募集時期で、先日1人の方が申し込みに来られまして、申込のきっかけが、介護保険の担当の方の進めだったと伺いました。その方は家族を亡くされて自宅に引きこもりがちになっていたところ、介護保険の方が、「とても親切で進めてくださったんです。」っていう話を聞きました。年長者研修大学校は、60～90代いろんな世代の方がおられますが、家庭に引きこもりそうな方を紹介してくださったということで、私たちもとても嬉しく、その方にとっても、今からの人生を歩む上で、大変プラスになる情報を渡してくださったのではないかなと思って、それをしてくださった介護保険の方に、本当感謝の気持ちでおりますのでちょっと一言。ありがとうございました。

構成員 私は、健康運動指導士として、身体を動かしたり、頭を動かしたりする現場にはたくさん出ているのですが、現場でその効果がわかりにくいものが、

頭と体のいきいきトレーニング、認知症のところがありまして、体力測定なんかとは違って、これは数字での効果判定が出にくい、こういった形でその効果っていうのを、出してらっしゃるのかなあとか、こういった形のプログラムを使ってらっしゃるのかなっていうのを知りたいなと思います。

事務局 今年度から初めて始めた教室になります。お一人お一人の個別の認知機能のテスト結果というところはまだしておりません。比較のお元気な方を対象にした事業になりますので、今回様々なプログラムを組み合わせ、運動だけではなく、そのグループで、それぞれの興味があること、それについて話し合う。それによって人から意見やヒントをもらって、自分もこうやってみようとか、そういった行動を変化させていくところを目的としています。

実際に認知機能がしっかりした方とそうでもない方と一緒にグループとなった際、今度3人で、旅行に行ってみよう。そういったグループもあったようです。そんな形で、自分ができないところは他の方に手伝ってもらおうとか、そういったところをベースに重ねていって、その方お1人お1人の生活を少しずつ変えていく。そういったところでの変化ってところを、この事業の目標にしていこうかなというふうに今思っているところです。

構成員 後期高齢者の健診についてご質問というかお願いを。実はこの間、ウェルとばたで市民の皆様にお話するとき、後期高齢者健診の話をしたのですが、「そんな健診はいつやっているんですか。」という質問がありました。「福岡県から、はがきが行ってないか。」と聞いたのですが、「そんなものは見てない。」健診の実施状況をお伝えしても、「そんなものは来ていないから分からない。」と言われて、隣の方もうなずいているので、結構ご存じない状況でした。

郵送されているのでしょうけれど、気づいていない高齢者の方がいらっしゃる。私、歯科医師ですけど、高齢者歯科健診の全国の受診率がおそらく10%前後だと思うのですが、岡山県の歯科医師会が健診受診率2倍ぐらい20%ぐらいと高くなっている。岡山市に「何しているのですか。」と聞くと、ただ「ハガキをもう一回出す。」ということでした。北九州でも、県からと再度北九州市から、ご案内をしていただけるともう少し、件数が上がるのかなと思いました。

代表 この点について事務局からありますか。

事務局 確かに、特定健診は平成20年度から始まって大分浸透してきたのですが、後期の健診になると、特定健診と比べると受診率かなり低く、本当にまだ隅々まで、伝わってないところが現状で、そういった状況でこの受診率に

なっているっていうところでもあります。

また後期高齢者健診については、福岡県が、病院にかかっていたら受けなくていいという制度があったので、自分は受けられないと思っている方も中にはおられるというのが現状です。そのため、健診の受診方法や、対象者の周知というのは本当に重要だと考えています。先ほどご意見いただいたように、忘れた頃にまた届くと受診のきっかけにつながるといった、複数回アプローチすることは効果的だとは思いますが、健診の実施主体が、福岡県後期高齢者医療広域連合というところでもありますので、その動きとあわせて、こちらも検討してはいきたいと思っていますところでは。

受診のきっかけは、身近な方からの声掛けというところも大きいかなと思っていますので、地域のいろんな方からの「もう健診受けた？」などのきっかけづくりを行っていききたいと思っています。以上です。

構成員 昨年もお話をさせてもらったのですが、高齢者の方が外に出るには、雇用が一番いいと思っている。産業経済局の預かりみたいな話になったのですが、最近いろんなところで思うことなのですが、僕は福祉のロボットの開発もしていてポルトでは高齢者雇用をしたり、地元の地域の雇用を作ったりとか、空き家問題であったり、なんか社会問題みたいなものが僕の周り大体半径 500 メートルぐらいの世界で存在している感じで、1人の人間が、多ジャンルやらないと解決できないみたいな時期にきている感じがしている。省庁縦割りで予算組んで、介護福祉の問題はここでやります、高齢者の雇用はここでやります、とかそういう話の次元ではもうなくなってきているかなってのはずっと感じていまして、もう少し民間を巻き込んで、多角的な視点で見ないとちょっときついかかと。

ただ、テクノロジーで解決できるものはテクノロジーで解決するし、見守りみたいな話も、もっと住宅側の話が住まいをどうするかって話とか、商業としてどこに関わってもらおうとか、買い物で行っている生活圏内でどういうふうに情報を発信するかって、もっと何か民間に協力していかないと、難しいかなと思う。1つのご提案としてこういうところの委員に、サンキュードラッグさんとかいてもいいだろうとか、考えられるといいのかなという意見です。いわゆる高齢者っぽい会社だけじゃないところも、高齢者と引き離して生活している会社なんかもどこも存続も存在しなくなってきている日本は。もっと民間を頼ってもいいのではないかなと思いますし、いずれにしてもどうせ5年後にはもう行政の予算は多分使えなくなってくるだろうと俺は思っているんで、民間側のお金とか場所とかを活用しながら、共助の概念で、皆さんで、なるべく地域で活動できるようにお願いしますっていうふうにしていかないと、難しいのかなと思うので、まだ早い時期からこういう計画作成とかにもそうですけど、民間を入れていくのが、いいん

じゃないかなと思います。その動きは自分も頑張ります。ぜひよろしく願います。

代表 ありがとうございます。皆さん、うなずいてたので、できると思います。

構成員 医療の世界というのはみんな高齢者ばかりなので、仕事してなかったらここで僕もやっているのかな？とそういうことを考えるとやはり仕事をするということは、認知を含めたそういったことの予防にもなるのかなっていうふうに思います。

先ほどのヒアリングフレイルがありますけど、高齢、加齢というのは避けて通ることができないので、そこでいかにうまくその付き合うかということ、皆さんいろいろ考えられると思うんですけども。なかなか全員の方がよく理解しているわけじゃない。

先ほど健診の話がありましたけども、北九州市国保の場合はもう毎年その健診受けられるけど、当然高齢者だったら、健診しない。当然お金もかかりますし、そういった制度の違いというのは少しあるからですね。だからその辺りやっぱり、健診だけを取り上げるのであれば、そういった制度を本格的に実施するといえますかそういう形も必要かなというふうに思います。

代表 皆さん方からご意見をいただきましてまた今後の参考にしていただきたいと思います。それでは何か事務局の方から連絡事項がございましたらお願いいたします。

事務局 皆様活発なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。

追加の意見などがございましたら、事務局までメール等でご連絡いただければ幸いです。

また、冒頭お伝えしました議事録につきましては、伊藤代表に確認させていただいて、市のホームページに公開予定としております。本日いただきましたご意見を参考に、また皆様のご協力を賜りながら、プランの推進に努めて参りたいと思っております。事務局からの連絡事項は以上です。

これをもちまして、令和6年度介護予防活躍推進に関する会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。